

COVID-19 状況下における同時双方向型オンライン指導に対する 児童と保護者の認識

Study on Children and Parent's Recognition towards Simultaneous Interactive Online Classroom under COVID-19 Circumstances

畔柳 百合枝^{*1}, 北澤 武^{*2}
Yurie KUROYANAGI^{*1}, Takeshi KITAZAWA^{*2}

^{*1} 東京学芸大学教育学部

^{*1} Faculty of Education, Tokyo Gakugei University

^{*2} 東京学芸大学大学院教育学研究科

^{*2} Graduate School of Teacher Education, Tokyo Gakugei University

Email: a181407x@st.u-gakugei.ac.jp

あらまし：本研究では、COVID-19によって休校中の小学校で行われた同時双方向型オンライン指導の児童と保護者を対象に質問紙調査を行い、どのような認識を得たのかを分析していった。その結果、同時双方向型オンライン指導により児童と保護者は教師と級友に対する安心感を得たことが分かった。

キーワード：小学校、同時双方向型、オンライン指導、COVID-19

1. はじめに

COVID-19で休校中、学校が課した家庭学習の内容は、複数回答で教科書や紙の教材の活用(100%)などが挙げられ、同時双方向型オンライン指導(以下、オンライン指導)は8%にとどまっていた⁽¹⁾。GIGAスクール構想で一人一台タブレット端末の環境が整備されたら、オンライン授業が行われる可能性が高い。

そこで本研究では、オンライン指導に参加した児童と保護者を対象に、この指導に対する認識を明らかにすることを目的とする。

2. 概要

2.1 調査対象

COVID-19の影響で休校中にオンライン指導を実施した東京都内公立A小学校(全校児童249名)のうち、オンライン指導に1回以上参加した116名(46.6%)の児童・保護者を調査対象とした。

2.2 オンライン指導について

オンライン指導は2020年5月11日から2020年5月28日に行われた。1~6年生と特別支援学級の児童は、週に2回、決められた曜日に国語と算数の指導を受講した。1回の指導は約15分間実施された。

2.3 児童が使用した機器とテレビ会議システム

児童は、タブレット型コンピュータ(38名, 32.8%)、デスクトップ型またはノート型コンピュータ(64名, 55.2%)、スマートフォン(14名, 12.1%)を用いて、テレビ会議システム(ZOOM Cloud Meetings)によるオンライン指導に参加した。

3. 分析

2週間のオンライン指導の後、保護者と児童に質

問紙調査を実施した(表1)。アンケート項目は保護者と児童のオンライン指導に対する認識について、各項目の肯定、否定の傾向を分析するために、中央値(3)を閾値とする母平均の検定(t 検定)を実施した。また、項目間の関係を分析するために、相関分析を行った。

4. 結果

4.1 母平均の検定

表1は質問紙調査の回答について、母平均の検定を行った結果を示したものである。その結果、全ての項目に有意差が認められ、中央値3よりも平均値が高く、肯定的な回答の割合が多いことが分かった。「3. 先生と会うことができ安心しましたか($t(116) = 15.5, p < .001$)」の平均値は4.24と中央値3よりも高かったことから肯定的な回答が多いことが分かった。「5. 先生はいつも私達のことを考えてくれていると思いましたか($t(116) = 16.2, p < .001$)」の平均値は4.22と中央値3よりも高かったことから肯定的な回答が多いことが分かった。オンライン指導を実施した結果、教員に対する肯定的回答が他の項目よりも平均値が高かった。

4.2 相関分析

質問紙調査の回答について、相関分析の結果から、問3と相関係数が0.6以上の項目を以下に述べる。

「1. Web授業を楽しみにしていましたか。」と「3. 先生と会うことができ安心しましたか。」に中程度の正の相関関係が認められた。 $(r = .613, p < .01)$ 。児童と保護者は、オンライン指導を楽しみにすること、教師と会うことで安心することが相伴って高まることが分かった。

「2. 友達と会うことができ安心しましたか。」と「3. 先生と会うことができ安心しましたか。」

表1 質問紙調査の結果（中央値（3）を閾値とする母平均の検定（ t 検定））

| 項目 | 平均値 | 標準偏差 | t 値 | p 値 | 信頼区間(95%) | | 効果量 (r) |
|---------------------------------------|------|------|-------|-------|-----------|------|----------------|
| | | | | | 下限 | 上限 | |
| 1. Web授業を楽しみにしていましたか. | 3.97 | 1.00 | 10.4 | .000 | 3.78 | 4.15 | .690 |
| 2. 友達と会うことができ安心しましたか. | 4.07 | 1.01 | 11.4 | .000 | 3.88 | 4.25 | .730 |
| 3. 先生と会うことができ安心しましたか. | 4.24 | 0.86 | 15.5 | .000 | 4.08 | 4.40 | .820 |
| 4. 私がA小学校の仲間であることを感じましたか. | 3.97 | 0.84 | 12.5 | .000 | 3.82 | 4.13 | .760 |
| 5. 先生はいつも私達のことを考えてくれていると思いましたか. | 4.22 | 0.81 | 16.2 | .000 | 4.07 | 4.37 | .830 |
| 6. 定期的なWeb授業の配信は、生活のリズムを整えるのに役立ちましたか. | 3.99 | 0.95 | 11.3 | .000 | 3.82 | 4.17 | .720 |
| 7. これから家でできる勉強をがんばろうと思いましたか. | 3.92 | 0.89 | 11.2 | .000 | 3.76 | 4.09 | .720 |
| 8. 学校が始まるのが、より楽しみになりましたか. | 4.10 | 1.02 | 11.7 | .000 | 3.92 | 4.29 | .740 |
| 9. Web授業は楽しかったですか. | 4.16 | 1.00 | 12.6 | .000 | 3.98 | 4.35 | .760 |
| 10. Web授業があれば、また参加したいですか. | 4.22 | 0.93 | 14.1 | .000 | 4.04 | 4.39 | .800 |

に強い正の相関関係が認められた($r = .790, p < .01$). 児童と保護者はオンライン指導で友達と教師に会うことで、安心感が高まることが分かった。

「3. 先生と会うことができ安心しましたか。」と「8. 学校が始まるのが、より楽しみになりましたか。」に中程度の正の相関関係が認められた($r = .637, p < .01$). 児童と保護者はオンライン指導で教師に会うことで安心することと、学校が始まるのがより楽しみになることが相伴って高まることが分かった。

「3. 先生と会うことができ安心しましたか。」と「9. Web 授業は楽しかったですか。」に強い正の相関関係が認められた($r = .715, p < .01$). 児童と保護者は教師に会うことができ安心することと、オンライン指導が楽しかったという認識が相伴って高まることが分かった。

5. 総合考察

母平均の検定の問3の結果から、オンライン指導を行うことで多くの児童と保護者が教師に会うことで安心するという認識が他の項目より高かった。つまり、本研究のオンライン指導は、休校中に教師とオンライン上で会う機会を児童と保護者に提供し、安心感を与えたという点で重要な取り組みであったと考えられる。

相関分析の結果から、問3と0.6以上の相関係数が認められたのは問1, 2, 8, 9であり、教師に会えたことの安心感とオンライン指導に対する楽しみは関連していた。すなわち、オンライン指導によって、児童と保護者に対して教師に会えたことの安心感を高めると同時に、オンライン指導に対する楽しみも高めることができたと考えられる。

なお、問3は問2と強い正の相関関係が認められた。これらの共通点は安心感であり、オンライン指導は、教師に対する安心感と級友に対する安心感を同時に高める効果があると考えられる。「教師が、児童がネガティブな感情に陥った場合の安全な避難場所として、また新たに探索活動を起こす際の安心の基地として機能している場合に、児童の自尊感情や学習面でのパフォーマンスも含め、種々の適応性が総じてすぐれる傾向が見出されている⁽²⁾」と報告さ

れているように、教師は児童と保護者にとって、安全な避難場所としての役割を対面だけでなく、オンラインでも役割を果たす可能性がある。また、級友も同様の役割を果たすと考えられる。

そして、問3は問8と中程度の正の相関関係が認められた。これらは、オンライン指導で安心感を与えてくれた教師に直接会いたいという気持ちの表れと考えられる。よって、本研究のオンライン指導は、対面授業の開始に向けた動機づけにつながる事が期待できる。

以上より、本研究のオンライン指導が児童や保護者の認識に影響を与えたのは、教師に対する好意的な感情と判断できる。すなわち、教師のオンライン指導の取り組みが、児童の学習意欲や保護者の学校に対する信頼感に影響を与えると予想できるため、今後、教員のオンライン指導の指導力を高めることが求められる。

6. まとめと今後の課題

本研究は、COVID-19の影響で休校中にオンライン指導を実施した小学校の児童と保護者に質問紙調査を行い、その指導に対する認識を分析した。その結果、教師に会って安心感を高め、これと同時にオンライン指導や学校再開の楽しみを高めたことが分かった。

今後の課題として、オンライン指導以外の学習内容によって児童の安心感がどのように異なるかを追究したり、教員のハイブリット型授業の指導力を高めるためにはどのような研修を行ったら良いかを明らかにしたりすることが求められる。

参考文献

- (1) 文部科学省：“新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた公立学校における学習指導等に関する状況について”，https://www.mext.go.jp/content/20200717-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf (参照日 2020.10.3) (2020)
- (2) 鹿毛雅治ほか：“準備委員会企画シンポジウム 授業改善—心理学からの提言—”，The Annual Report of Educational Psychology in Japan 2019, 58, 274-283 (2019)